

**地域とヒューマニズム**  
**地域における子育て支援**  
— 政策と実態からの検討 —

佐々 加代子

本研究は、政府の政策を受けて取り組んでいる自治体の取り組みとその実情について、地域の援助体制という視点で整理してみることをねらいとする。地域が子育て支援の援助体制をとっていくにはどのような問題点があるのか、その問題の対応策としてどのような活動がなされているのか、ということ、地域の根の部分の検討も行い、地域におけるヒューマニズムの具体的実践の内容を検討する。

埼玉県所沢市、東京都清瀬市については、ファ

ミリーサポート事業を通しての実情からみた問題点を整理した。昭島市は社会福祉協議会内の活動の一つとしてのファミリーサポート事業を、福祉まっぴりの活動から検討した。東村山市、小平市については、いわゆる草の根運動の子育てネットワークの活動を通して、行政側の子育て支援の取り組みと問題点を見出した。さまざまな地域の実情から見えてくることは、相互の連携のあり方と行政側の実情の把握のし方により、推進も停滞もあり得るという実情である。

**地域とヒューマニズム**  
**地域の保育ニーズと乳児保育**  
— 乳児保育における子どもと保育者の関係を中心に —

鈴木 佐喜子

近年、待機児が大きな社会問題となっているように、乳児保育に対するニーズが高まり、乳児保育は0歳児を中心に急速に拡大しつつある。保育所は地域の保育ニーズに応えつつ、子どもたちの成長・発達を保障する乳児の保育を守り発展させるという困難な課題に直面している。乳児保育では、子どもと保育者との関係が特に重要であるとされるが、今日の乳児保育の現状にあっては、子

どもと保育者の関係と密接に関わる保育体制を安定的に組むにはさまざまな困難が予想される。

そこで、本研究では、子どもと保育者の関係の問題を中心に、①乳児保育の現状をできる限り丁寧明らかにすること、②子どもが安心できる関係とはどのような関係であり、何が大切であるかを明らかにすることを課題として、質問紙調査の分析、観察調査、聞き取り調査を行うこととした。